講演論文作成要領

Sample Form of The Proceedings

○　機械　太郎（機械大）　　機械　次郎（機械重工）
機械　三郎（機械大）

Taro KIKAI, Kikai University, Shinanomachi 35, Shinjuku-ku, Tokyo
Jiro KIKAI, Kikai Heavy Industries Ltd.
Saburo KIKAI, Kikai University

This sheet is an example of a paper which has been prepared according to the following instructions. Use a white A4-size paper(210x297mm). Marginal spaces are top area:20mm, bottom area: 20mm, left area: 15mm, right area: 15mm and space between the columns: 10mm. No special typing sheets will be provided. Title should be typed in 12 points. Text should be typed in 9 points. Photographs, illustrations and tables must have captions. For the best reproduction of line drawings, paste the original drawings at appropriate spaces. An English abstract consists of 80 − 100 words.

Key Words: Dynamics, Design, Vibration, Control, Measurement

1. はじめに

この文書は，第５３回自動制御連合講演会での講演論文の書き方について記述したものです．この文書を参考に講演論文を作成ください．

講演論文集を CD-ROM にて発行するにあたり，電子フォーマットとして PDF(Portable Document Format)にてご提出ください．なお，論文原稿の PDF 変換は著者の皆様方ご自身で行っていただきます．

2. 用紙サイズと論文の長さ

用紙サイズを A4 とし，左右の余白を 15mm，上下の余白を 20ｍｍとして下さい．講演論文の長さは 2〜6 ページとします．ただし，PDF ファイルの大きさは，1.2 MB(メガバイト)以内とします．

3. 書式

3.1. １ページ目の書式　　表題（和文，英文，12 ポイント以上の文字を使用），著者名及・所属（和文，所属は括弧で囲んで略記，講演者には○印），著者名・所属・所在地（英文），英文アブストラクト（80 から 100words 程度），英文キーワード（5 語句程度）の順に記載して下さい．

3.2. 本文　　本文の体裁は2段組･中央の空白を10ｍｍとし，片段 1 行あたり 26 文字・1 頁あたり 60 行以内を目安として下さい．文字は 9 ポイント〜11 ポイントを標準サイズとし，明朝体や Times といった標準的なフォントをご使用下さい．

3.3. 図・表　　図や写真にはできる限り鮮明なものをご使用下さい．図・表中の文字は 7 ポイント以上のものをご使用下さい．図・表のタイトル及び説明は英文で記載して下さい．

3.4. 式の表記　　式の前を 2 文字程度空け，

$$m\ddot{x} + c\dot{x} + kx = f \qquad (1)$$

のように記載します．タブリーダーは無くても結構です．

4. スタイル「見出し 1」

4.1. スタイル「見出し 2」　　□□

スタイル「本文」□□

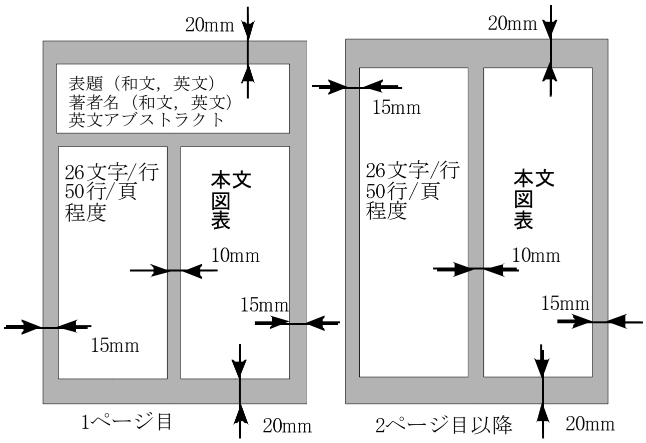

Fig. 1 Sample format

□□

□□

□□

□□□

□□

□□

□□

□□

□□

□□

□□□

□□

□□

□□

5. 文献

本文中の引用箇所には, 文章の右肩に小括弧を付した番号を記入し，原著文献を末尾にまとめて明記して下さい.

6. おわりに

このサンプルファイルは目安としてご活用くださいますようお願いします.

文　　献

[1] 日本機械学会誌，5 月号，Vol. 102, No. 966, (1999), 103－105,（告 207－209）

[2] 機械太郎，機械次郎，振動に関する研究，機論，100－200，C(2000)，82－88

[3] J. P. Den Hartog, Mechanical Vibrations, Dover, (1985)

[4] 機械三郎，PDF について，機講論, No.00-20(1), Vol. A，(2000), 34－35